

4月 12日(日曜日)「恐ろしい嫉妬心」

【新改訳 2017】

Ⅰ サムエル記18・6－30

「サウルは、このことばを聞いて、非常に怒り、不満に思っていた。『ダビデには万を当て、私には千を当てた。彼にないのは王位だけだ。』その日以来、サウルはダビデを疑いの目で見るといった。」(8、9節)

ダビデが巨人ゴリヤテを打って帰って来た時、女たちは町々から出て来て歌と踊りでサウル王を迎え、「サウルは千を打ち、ダビデは万を打った」と歌いました。

その時のサウルの心境が上記のようなものだったことは、わかる思いがします。権力者が自分以外の者の人気を喜ぶはずがありません。肉の心理からすれば屈辱を意味します。サウルは、ますます一国の王としてはふさわしくない言動を取ります。繰り返し、ダビデを殺そうとしました。

嫉妬(ねたみ)はなんと恐ろしい心理でしょう。見るもの、聞くことをみな変形させ、歪め、悪意、憎しみ、殺意へと悪化させます。私たちの生来の性質です。よく注意して、この心理を克服したいものです。

～祈り～

主なる神さま。どうか、私を恐ろしいねたみの心理からお守りください。  
その肉の心に自分が負けないだけでなく、他の人を傷つけたり、悲しま  
せたりすることがないように。

**【学びのために】**

嫉妬心の心理(肉の心理)について:心理学と聖書の双方から学ぶこと  
を勧めています。時々、教会の中の諸問題の奥底に、この心理が働いて  
いるからです。